

NEWS

New hospital of East, West and South medical centers

vol.64 | 医療ネットワーク



Kuwana City Medical Center

2018年4月桑名東・西・南医療センターが1つになり新病院が誕生しました。

Take Free

特集

医療ネットワーク

医療ネットワークとは？

病院や診療所、介護施設、家庭などをインターネット回線で接続し、患者さんの同意を得た上で、患者さんの様々な医療情報を共有するシステムです。主なメリットは次の通りです。

■切れ目のない診療

患者さんが転院したり、退院して診療所通院となっても、新しく担当される医師は、入院時の病状や検査結果を詳細に把握することができ、最適な診療を継続して行うことができます。

■救急医療

患者さんの急変時に、受け入れ先の病院でいち早く既往歴などを把握し治療体制を準備することができます。

■医療連携

病院、診療所、介護施設、訪問看護ステーションなどが緊密に連携し、万全なセキュリティを保ちながら患者さんの医療情報を共有することにより、市民の皆さんは安心して診療を受けることができます。それにより健康増進効果が期待されます。

医療ネットワークには、大きく分けて次のようなものがあります。

(1) 病院間ネットワーク(病院同士のネットワーク)

三重県内外の病院や、桑員地区の病院がネットワークを作るもので、病院全体と診療科ごとのネットワークがあります。

A) 病院全体のネットワーク

- 三重医療安心ネットワーク(ID Link)
- Mie-Lipデータベースサーバーセンター

B) 診療科ごとのネットワーク

- 三重周産期医療ネットワーク
- 三重画像診断ネットワーク

(2) 病院、診療所、介護施設、訪問看護ステーションなどのネットワーク

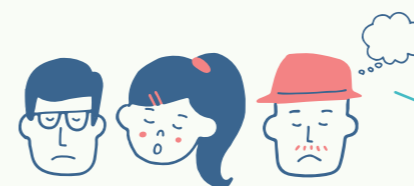
- ゆめはまネットワーク(桑名市)

(3) 病院、診療所と各家庭のネットワーク

- 在宅診療への応用
- コロナ患者に対するオンライン診療

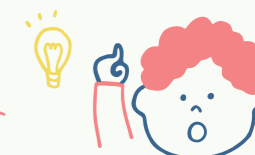
これらネットワークの構築に欠かせないのが、医療DX(デジタル・トランスフォーメーション)です。

患者さんへのより良い医療の提供、医療従事者の負担軽減を目的とした医療分野でのデジタルトランスフォーメーション(DX)がアツい！



デジタルトランスフォーメーション(DX)って？

デジタル技術によって人々の生活をより良いものに変革すること



DXにより、紙による記録などのアナログデータをデジタル化し、蓄積されたデータを事業に活用することができるようになります。また、従来の業務をデジタル化すれば、業務の効率化だけでなく、人件費削減などの効果も期待することができます。現在、私たちがよく利用している例として、デジタル・キャッシュの先駆けとなった交通系ICカードやコロナ禍で急速に普及した宅配サービスなどがあります。



医療におけるDXは、どのような場面で活用するのでしょうか。大きく5つの活用方法があります。

- 1 医療情報の共有**
他の医療機関と医療情報をネットワークで共有することにより、重複した検査や問診を避けることができるようになります。それは業務の効率化だけでなく、患者さんの負担軽減につながります。
- 2 データを活用したBCP(事業継続計画)強化**
自然災害やテロ(サイバーテロ)によって生じる診療への影響を最小限にし、診療を継続することが可能になります。
- 3 予防医療の促進**
スマートウォッチなどのウェアラブルデバイスを通して体の変化に関するデータを日常的に記録し、データに基づいた体調管理を実現することで病気を予防します。これらのデータを医師と共有し体調管理をしていくことで、病気の兆候をとらえ、早期治療することで、医療費削減にも繋がるのが期待されます。
- 4 オンライン診療**
ビデオ通話を通じた診療を行い、遠隔地で通院が困難な患者さんの診療が可能になります。
- 5 AIの導入**
AIとは人工知能です。医療現場にAIを取り入れることにより、医療従事者の負担軽減につながります。



当センターでは
①ネットワークでの医療情報共有 ②災害など非常時における対応
③予防医療への応用などの分野でDXを活用しています。
次ページ以降、その取り組みのいくつかをご紹介します。

三重医療安心ネットワーク

三重大学病院を中心として当センターを含む県内18病院が、ID-Linkシステムを利用したネットワークを構築し、患者さんの様々な医療情報を共有しています。それ以外の293施設からも、患者情報を閲覧することができます。2021年2月28日現在、登録患者数は24,877人です。

「利用するメリットは？」

患者さんの同意を得てこのサービスを利用することにより、診療所からは病院での患者さんの検査結果や処方内容を確認して診療をすることができます。これにより、診療内容の伝達漏れを減らすだけでなく、薬の重複投与や重複検査を防ぐことができます。



Mie-Lipデータベースサーバーセンター

三重県では、大規模災害やサイバーテロなどにより病院機能に著しく障害が発生した場合に、病院や診療所における必要最低限の機能が維持できるようMie-Lipデータベースサーバーセンターを三重大学病院へ設置しています。当センターもMie-Lipデータベースサーバーセンターと安全な専用回線を用いて接続され、同意の得られた患者さんの医療情報を暗号化や匿名化した状態で保存しています。災害などにより、当センターや近隣医療施設の患者情報が消失した場合、災害拠点病院である当センターはMie-Lipデータベースサーバーセンターと連携し、必要な患者情報を迅速に入手し、投薬などの最低限の診療を継続できるようにします。

三重県周産期医療ネットワーク

三重大学医学部産婦人科が中心となり、当センターをも含めた県内8医療機関に設置された周産期医療センターがネットワークを組んでいます。テレビ会議システムを使って朝のカンファレンスを定期的に行い、患児の情報共有を行っており、重篤な患児に対し最適な治療が速やかに受けられるように協力し合っています。こうした取り組みの結果、三重県の周産期死亡率は2016年には全国最下位でしたが、3年後の2019年には全国一位となり、周産期死亡率の最も低い県となりました。

ゆめはまネット(ゆめはまちゃん医療・介護ネットワーク)

桑名医師会と桑名市在宅医療・介護連携支援センターが協力して立ち上げた在宅医療・福祉統合型支援ネットワークシステムです。桑名市では高齢者福祉の充実を図るため、行政、医療機関、介護・福祉施設、訪問看護ステーションなどが協力して、全国に誇り得る「桑名市地域包括ケア計画」が策定され、活発な活動が展開されています。このネットワークもその事業の一環であり、利用者登録されたパソコンを用いて電子@連絡帳を利用することにより、支援機関同士が情報伝達を行うことができます。当センターの周産期医療センターもこのネットワークを利用しています。

在宅診療への応用

在宅患者さんの血圧や、脈拍、血中酸素飽和度、心電図などの医療情報を病院や診療所へ送ることで、担当医師や看護師は患者さんの急変にいち早く対応ができるようになります。
(新しく開設しました在宅診療科については、8ページで紹介しています)

コロナ患者に対するオンライン診療

コロナ患者さんへの問診や、血中酸素飽和度などの情報を、オンラインシステムを介して把握することにより、患者さんを直接診ることなく診療することができます。

桑名卓球珈琲(予防医学)

本誌で何度か取り上げている城南地区の「卓球^{カフェ}珈琲」ですが、この取り組みは、桑名市、当センター、卓球で日本を元気にする会、朝日エル、ネスレ日本などとの共催により、卓球と珈琲を通じて地域に住む高齢者の健康増進とコミュニティの活性化を図ることを目的とした活動です。ここでも、現在開発中のスマートウォッチなどのウェアラブル端末により、参加者の血圧や血糖値、体重、体脂肪量などを計測して当センターに送信し、その変動を調べ、参加されている方々の健康増進や病気の予防に努めています。



新連携プロジェクト 三重大学北勢サテライト(医療分野)が開始されました

3月30日、三重大学・桑名市・桑名市総合医療センターによる新連携プロジェクト
三重大学北勢サテライトー未来の共創に関する協定ーが締結されました。
当センターはその医療分野を担当します。

桑名市総合医療センターに三重大学による地域サテライト医療拠点「北勢サテライト(医療分野)」が設置されました。これにより、桑名市や三重県、医師会、地域の医療・介護機関、企業などと連携し、三重大学で開発された技術を地域医療に応用し、DXを活用した医療分野における患者さん中心の「社会との共創」を推進することができるようになりました。プロジェクト・リーダーで三重大学病院副院長(放射線科教授)の佐久間肇先生に事業の具体的な内容を伺いました。

1)地域におけるオンライン診療や在宅医療などの医療DXの推進

厚生労働省が新たに推進する医療情報の標準規格“HL7 FHIR”による新世代医療情報ネットワークを三重大学が中心となって構築し、地域住民と医療機関、介護者、薬局、自治体などを結びます。

2)病気の悪化の予防

患者さんの血圧・脈拍・体重・症状・運動量などを、スマートフォンやオンライン医療機器を用いて日常的に把握するパーソナルヘルスレコード(PHR)を活用することにより、患者さん自身が病状悪化に気づきやすくなるだけでなく、アプリケーションを用いて早期に医療機関受診を推奨するなど、病気の悪化を防ぎます。

3)AIを用いたがん検診などの精度向上

肺がん検診などのX線写真やCT画像を三重大学病院に設置する地域クラウド画像サーバに集積し、AIを用いた診断支援と経時的比較によって病変を的確に評価できるシステムを構築し、がん検診の質の向上を図ります。

4)予防医学の推進

「卓球珈琲」など産学公民連携による「健康寿命」延伸プログラムの効果を、スマートフォンやウェアラブル端末からのデータと医療データから客観的に評価し、健康寿命延伸プログラムの効果をエビデンスに基づいて検証します。



調印式における三重大学伊藤正明学長(左)、伊藤徳宇桑名市長(中)、竹田寛桑名市総合医療センター理事長(右)

周産期医療連携

当センターでは妊娠前から産後、さらには次の妊娠までを「周産期」と捉え、産科・小児科・精神科などの複数の診療科や部門、地域の医療機関、市役所等の公的機関と密に連携し合い、安心安全な周産期医療を提供できるよう日々取り組んでいます。

産婦人科医師7名(2022年3月時点)で診療にあたっています。産婦人科病棟は6階北にある女性病棟の25床で、NICU(新生児集中治療室)12床を併設しており、北勢地区に限らず、愛知県や岐阜県の幅広い地域のクリニックや周産期センターからご紹介を頂き、積極的に里帰り分娩を受け入れています。

24時間体制での母体搬送・ハイリスク分娩・手術と、妊娠30週以後の早産に対応し、2021年の分娩件数は290件でした。当センターでは様々な部門と密接に連携しながら、病院全体で取り組む体制を整えています。

<ハイリスク出産の院内連携>

小児科、精神科(精神疾患合併妊娠、産後うつ)、麻酔科(手術麻酔、無痛分娩)、放射線科(止血困難症例での血管塞栓術)、各内科系診療科や、輸血部(大量出血例での輸血療法、自己血貯血)、栄養管理科(産前産後の栄養指導)、地域連携室(社会的ハイリスク例)等と日常的に連携をしています。

<院内外の関係機関との連携>

その他にも社会的・経済的問題のある妊娠では、妊娠中から産後、育児までお母さんやご家族が困窮しないよう、**オンライン**でのカンファレンスを月に1回開催しています。妊娠初期から定期的に市役所や公的機関、子育て支援施設と顔の見える関係を作り、支援に繋がっています。各機関からは当センター内の動きが把握できるようになり、支援現場での活動や、家庭訪問の受け入れが改善され、見守りがしやすくなったと良好な反応をいただいています。また、妊娠中から関係機関が情報交換を行うことでより密接な連携ができ、特に養育状況の把握が必要なケースでは「**ゆめはまちゃん医療・介護ネットワーク**」を活用し、小児科、産婦人科、クリニック、保健師、社会福祉士等のチームで対象者の情報を共有し、切れ目なく見守れる体制を構築しています。



多職種カンファレンスの様子

コロナ禍の中、この先もお産を取り巻く環境は悪化することが心配されます。当センターは、お母さんと赤ちゃん、ご家族の拠り所となるように努めていきます。

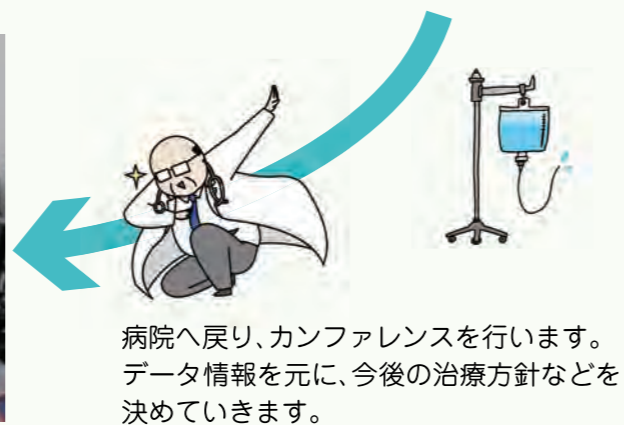
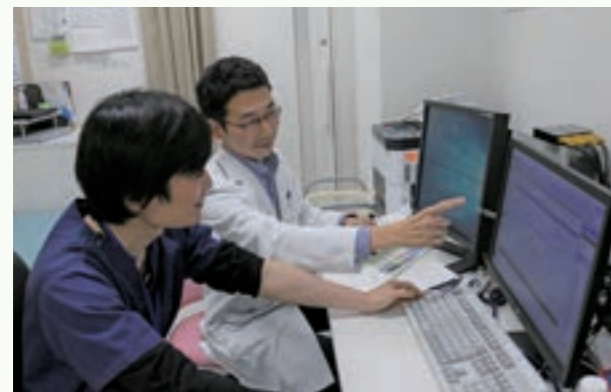
在宅診療はじめました！

ご自宅へ医師が訪問し診療します。

当センターにかかられている患者さんで、通院が困難であり在宅医療を希望される方のご自宅に医師が訪問し、診療を行います。



患者さんの最適な治療計画を立て、血液検査、心電図等を行います。



2022年4月より当センターで在宅診療がはじまりました。

今後、約800万人いる団塊の世代が後期高齢者となり、国民の4人に1人が後期高齢者になるとされる2025年に向けて高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活が送れるような政策が国全体で進められています。

そこで当センターでも病院に受診できなくなった患者さんや最後の時を住み慣れた場所で過ごしたい患者さんの診療ができるように野田健太郎医師、堀田康広医師が病院を出て、ご自宅などで診療できる体制を構築しました。ご自宅での診療になりますので高度な診療を行う事はできませんが、在宅診療はその人らしい「生き方」を最後まで行うにはどうすればよいかを医療者とご本人、ご家族とで模索していくことができます。

これからもさらに地域の医療に貢献できるように一生懸命頑張っていきますので宜しくお願い致します。

がん診療連携拠点病院



専門的ながん医療を提供し、地域のがん診療の連携協力体制を整え、患者さんや市民のみなさんへの相談支援や情報提供などの役割を担う病院として、令和4年4月1日より三重県知事から、『がん診療連携拠点病院』に認定されました。

三重県では、三重県立総合医療センター、三重中央医療センター、済生会松阪総合病院に次ぐ、4番目の認定で、桑員地区では初の認定となります。

医療圏	がん診療連携拠点病院 (国指定)		三重県がん診療連携拠点病院 (県指定)
	都道府県	地域	
北勢	桑名・いなべ		桑名市総合医療センター
	四日市		市立四日市病院
	鈴鹿・亀山		厚生連鈴鹿中央総合病院
中勢・伊賀	津	三重大学病院	三重中央医療センター
	伊賀		
南勢・志摩	松阪		厚生連松阪中央総合病院
	伊勢志摩		伊勢赤十字病院 (高度型)
東紀州			

- 桑員地区の33%以上のがん医療を担っています
- 多職種で治療方針を検討します
- がんについての相談ができます
- 緩和ケアの専門家を育成します
- がんの三大治療
○手術
○抗がん剤治療
○放射線治療
が出来ます
- 地域のクリニックと連携します
- がん診療の専門家がいます

当センターは三重県がん診療連携協議会に所属しており、三重大学病院をはじめ、県内のがん診療に関わる医療機関と連携して患者さんの治療をサポートしています。今後も、患者さんやご家族が安心してがん診療を受けられる病院として、引き続き職員一同全力で取り組んでいきます。

With you 医療人



新看護部長からのご挨拶

「地域の皆様に質の高い看護を実践し、一人ひとりの思いを大切にできる看護を提供します」という看護部理念のもと、スタッフ一人ひとりが、患者さん一人ひとりにあった看護を実践しています。当院は急性期病院であり、また地域の中核病院の役割も担っているため入退院も多くあります。どのような状況下でも、患者さんそれぞれの人生に寄り添える看護が実践できるよう努めていきたいと考えています。3つの病院が統合し4年経ち、医療を取り巻く社会情勢も大きく変化してきました。これからは、どのような情勢の変化にも柔軟に対応でき、地域の皆様を支えられる看護部でありたいと考えています。



看護部長
加藤 友美

副看護部長



業務担当 清水 みどり

看護職員が、患者さんを中心に考え、安全で安心していただける看護ケアを提供できるよう、看護業務の統一や修正などを日々行っています。また、入院予約や緊急入院の調整なども行っており、患者さんが適切な病棟に迅速に入院できるよう、病棟師長と協力しながらベッドコントロールを行っています。皆さんからのご意見をいただきながら、桑名市総合医療センターの看護スタッフとして責任をもって行動できる人材を育成すると共に、院内の様々な職種スタッフと連携しながら、患者さんにとって最適な看護が提供できる体制となるよう日々取り組んでいます。

副看護部長



教育担当 清塚 枝美

看護部理念である質の高い看護を実践する看護師を育成することを目的に、教育計画の企画を主に行っています。地域の皆様に安全・安心な看護を提供できるようスタッフと共に努力していきたいと考えています。患者さん一人ひとりの思いを大切にできる看護スタッフ育成に向け看護部全体で取り組んでいきます。

引き続きより良い看護を提供できるよう、スタッフ一同頑張ります。

これからの看護部とは

病院長 登内 仁

看護部長 加藤 友美

対談

看護部として目指すところ

- 登内** 看護部長就任おめでとうございます。
- 加藤** ありがとうございます。今まで以上に責任が重くなりますが、全ての看護職員がそれぞれ目標をもって楽しく仕事ができるよう取り組んでいきたいと考えています。
- 登内** 理想とされる看護部像はありますか。
- 加藤** 開院してから4年経ちますが、最初の2年間は3つの病院スタッフが一緒になって勤務をするということで、患者さんやスタッフの安全を考えながら看護を行い、あっという間に2年経ちました。次の2年間は、新型コロナウイルス感染症という経験したことのない感染症への対策を講じながら、緊張感をもって看護をしてきました。この4年間は、師長さんたちをはじめスタッフ皆さんの協力があったからこそ、乗り越えてこられたのだと実感しています。これからも師長さんをはじめ、現場のスタッフが一丸となって、同じ目標に向かって看護をしていきたいと思っています。また色々な医療情勢の変化に対し、柔軟な対応が出来る看護部を作っていきたいと考えています。
- 登内** 働きやすい職場を目指すと思いますが、具体的にどのような工夫を考えられていますか。
- 加藤** 私が考える働きやすい職場とは「希望する休日や勤務部署で、残業が少ない職場」というより、「年齢や経験、職種関係なく、お互いに色々なことを言葉で伝えることができる環境の職場」です。同じ目標に向かってスタッフ同士が協力し合うことが必要であり、より一層チームワークも良くなり働きやすい職場になるのではないかと考えています。
- 登内** 私たち医師や他職種の方々と、今後も密な連携を取る必要がありますね。医師へ何か要望はありますか。
- 加藤** 各現場では師長さんが中心となり、それぞれ医師や他職種の方々とコミュニケーションをとりながら看護をしています。患者さんに対し「一日でも早く良くなって退院してもらいたい」という思いは皆同じだと思いますので、お互いが色々意見交換をし、協力し合いながら患者さんへ関わっていきたくて考えています。時には熱い意見交換もあるかもしれませんが…(笑)

生活習慣病

生活習慣病、聞きなじみのある方も多いのではないのでしょうか。しかし、実際どんなもの？どうすればいいの？今回はそんなお話です。



糖尿病内分泌内科
堀田康広 医師

生活習慣病を厚生労働省のホームページで調べてみると、「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群」のことを指し、いわゆる2型糖尿病、肥満、高脂血症、高尿酸血症、循環器病、大腸がん、歯周病、高血圧症、肺扁平上皮がん、慢性気管支炎、肺気腫、アルコール性肝疾患等かなりの数の疾患が挙げられています。

その中でも自分で注意できる生活習慣はなんでしょう？今回は運動、喫煙についてお話ししたいと思います。



運動の効果をまず検討してみましょう。

運動不足にて胃、子宮内膜、腎臓、大腸、食道、乳、膀胱がんが発生するといわれており、これらは週5時間以上の運動で抑制できるとされています。また、週1回以上運動を行うとアルツハイマーリスクを41%低下できたり、うつ病を減らしたりすることも可能です。週1回でいいのでちょっと歩いてみるだけで認知症のリスクがさがらばどうでしょう？ちょっと動いてみたくありませんか？

喫煙に関するデータを検討してみましょう。

喫煙に対しては興味深いデータもあります。20歳より前から喫煙を続けている喫煙者の平均寿命は非喫煙群と比較して、男性8年、女性10年短いといわれています。それはわかっているよと言われそうですが、ここからが注目です。35歳より前に禁煙した群は、喫煙継続による死亡リスク上昇のほぼ全てを回避でき、45歳より前に禁煙した群は、喫煙継続による死亡リスク上昇の多くを回避できたという研究結果があります。また、喫煙にて認知症のリスクが46%も上がるといわれていますが、3年以上禁煙した場合、認知症発症リスクは非喫煙者と同じレベルまで低下することが示されています。最近、「ちょっと」、「今から」という言葉が好きになってきてよく使っています。ちょっとでいいので生活変えてみませんか？今からでいいので禁煙してみませんか？より良く、健康で明るい未来が皆さんを待っています！



UP 主な取り組み

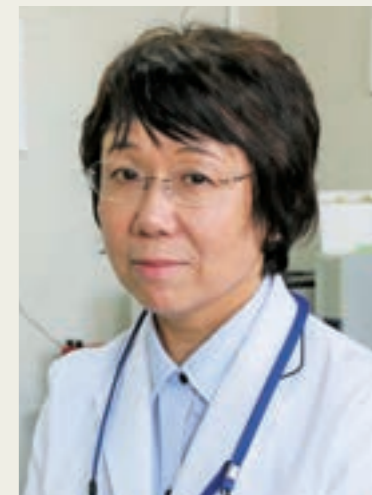
レスパイトのおはなし



ご家族の休息や家庭行事の為に、**医療的ケア児**を一定期間医療機関でお預かりする事



小児科
森谷朋子 医師



小児在宅医療

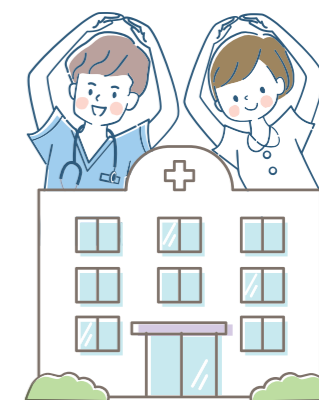
NICU(新生児集中治療室)や大学病院などで治療して、酸素吸入や栄養剤の注入など医療的ケアを受けながら、自宅療養に移行する小児の患者さんは、毎年増加する傾向にあります。自宅ではお母様が中心的役割を担うことが多く、訪問事業所などを利用しながら24時間体制で、毎日子どもさんのケアをされています。このような小児在宅医療を、地域でサポートする事が必要になってきます。

県外のレスパイト施設の利用は出来る？

三重県ではレスパイト施設が、中勢地区に限られています。また県外のレスパイト施設の利用は難しいのが現状です。桑名市内でのレスパイトに対して、医療的ケア児のご家族から多くの要望がありました。

近々、本格稼働！

このたび桑名市と桑名市総合医療センターが協力して、医療的ケア児レスパイト支援をする事になりました。桑名市の医療的ケア児等コーディネーターが保護者からの相談窓口となり、桑名市総合医療センターの病床を利用して、市内の医療的ケア児へのレスパイト提供の調整をします。近々、本格稼働いたします。すべての子どもさんが家族と楽しく暮らしながら成長していくために、今後も関係機関と連携して、このレスパイト支援事業に取り組んでまいります。





牛乳の寄付を頂きました!!

令和4年1月7日に有限会社四日市酪農様より牛乳1,000本の寄付を頂き、職員一同美味しく頂きました。



フレーベル館様より 図書が寄贈されました!

令和3年12月にフレーベル館様より絵本やメロディーブックの寄贈を賜りました。



理学療法部松本正知副室長が 執筆した本が出版されました。

「骨折の機能解剖学的運動療法—その基礎から臨床まで 総論・上肢、松本正知著、青木隆明、林典雄監修(中外医学社—東京)の第2版を令和4年1月30日に刊行しました。

平成27年に発行した初版を改訂したもので、骨そのものの総論や、上肢における様々な部位の骨折の診断法が、写真や図を用いて分かりやすく説明されています。関心のある方は是非ご一読ください。また第2版として新しく刊行された「標準理学療法学シリーズの骨関節理学療法学」吉尾雅春監修、福井勉、小柳磨毅編集(医学書院、東京)にも、共著者として執筆しています。併せてご参照ください。



三重医学貢献賞

医療通訳のカルラさんが、三重医学研究振興会から医学教育、社会貢献において顕著なる業績を挙げた者として、三重医学貢献賞を受賞しました。



Gallery ギャラリー

絵画等がたくさん飾られているのはご存知ですか?

院内には、寄贈いただいた絵画などがたくさん飾られています。Galleryでは、竹田理事長による作品紹介をシリーズで掲載しています。いろいろな作品がありますので、来院の際にはぜひ本物を探して、お楽しみください。



アンドレ・コタボ パリの町 油彩 25号 平田家寄贈
André COTTAVOZ(1922—2012年)

1906年松本市に生まれた北野太郎画伯は、サラリーマンをしながら独学で水彩画を描き続け、定年退職後に本格的に創作に打ち込まれました。1998年92歳で亡くなるまでに300点以上もの水彩画を残されましたが、そのうち3点をご遺族のご厚意により当院へ寄贈していただきました。この作品は未発表とのことで題名がありませんが、画伯の愛された故郷信州の里山風景でしょうか。連綿と続く山々は濃淡様々な緑で彩られ、麓の集落に並ぶ赤と青の屋根が鮮やかです。新緑の黄緑は爽やかで、鏡のような水田(みずた)には早苗が並び、初夏の山里の澄んだ空気が伝わってくるようです。入院棟8階談室の壁に飾られています。



北野太郎 題名なし 水彩画 北野家寄贈



一緒に働きませんか？ STAFF募集中

助産師

正規・臨時職員

看護師

正規職員（2023年度採用）

認定看護師

正規職員

介護福祉士

正規・臨時職員

看護助手

臨時職員



歯科衛生士

正規・期限付臨時職員

臨床検査技師

臨時職員

病院総合職(事務職)

正規職員

事務職員

臨時職員



院内保育園のご案内

当院では、スタッフが安心して働けるよう**ゆめっこ保育園**を運営しています。

当院の職員を対象に、職種や勤務形態(正規職員、臨時職員、勤務時間など)に関係なく利用できます。

お問い合わせ先

桑名市総合医療センター 総務課

TEL:0594-22-2015

その他のメディカルスタッフも
募集しています。

詳細については
WEBをご覧ください。

